

拔萃

アルサス、ローレンに於ける鐵鑛供給

The Iron Age, nov. 7, 1918. By Sidney Paige.

T H 生

大戰亂の影響せるアルサス、ローレン二洲に於ける鐵鑛問題に關する講述は、合衆國政策の見地よりして興味あるものとなれり。且又聯合國と獨逸との間に生すべき平和に就きても、此の難問の解決は、最後に残るべきものと思惟す、少くとも地質學者、技師、冶金家、及び工藝家の爲めに残らむことを希望するものなり。

想ふに無上にして重大なる結果を以て載積されたる偉大なる國家の政策は、世界史上未曾有にして現今の合衆國の政策其の者にして急烈なる近代の文明其の者か思慮深き人々にまで印象を與へたる行動の方向は廣大なる重要事件たることは明白なる事たるは疑なし、若し人類の最大なる利害關係並に其の利害關係なるものか近代の文明のものならんには之れを保護し助長すべきものなり、今日に至り特に民意に適せざる領土の殘存し居らざることとは意味深き事柄なり、最早や國家は定著なき全世界の工業上の釣合の救濟を求むるところの擴大する工業上の組織には束縛せられざらむ。此の戰亂に於て二個の偉大なる標的あり、且つ此重要件は犠牲なるものを證明し居れり、そは第一獨逸の傲慢にして獨裁的なる軍國主義は必ずや粉碎されむ、第二の標的は平和を維持し國家をして

模範たる工業の向上に誘導する力あるところの富源及び領土をは分配し直すべき事なり、然れば此の關係よりしてローレン洲の鐵鑛は益々以て紛窮を極めん。

合衆國の地位なるものは無類のものにして手段は世界に於て最も偉大なるものなり、吾等米人は所有する國民の勇氣に感染せられたり、吾等の取引上の關係を有する地理學上の位置は少くとも注目し値すべきものにして、歐洲と亞細亞との中間に位し、大取引の通路は吾等の領土に於て相會し且つ又通過する所なり、獨逸はローレン洲の鐵鑛無くして現戰亂を續行する事は不可能なるを以て其の鐵鑛地帯を兵力を以て獲得したりとせば、媾和は恐らく見る間に來りしならむとは明瞭に認識し得らるゝなり、今此處暫くアルサスの説述を措置き、ローレン洲に於て考ふるに、此れに接觸せる佛蘭西は今日歐洲中にて最大鐵鑛を保有し居る事は直ちに認識せらるゝなり、惟ふに此の戰亂に於て何等の原因もなく戰爭に参加したる何等纏りたる事情も無き事は大いに思考すべき詮議事項に値す、彼等の保有する固有の配置、利用上設立し又は破壊する境界の地形及び各自の配列につくべき協同或は戰爭の精神等に關しては歐洲未來の平和に就き大なる方法手段を要するなり。

扱てアルサス、ローレン二洲の現在に於ける立場に心を注ぎ、簡單に之を説述するは興味ある事なり。紀元前七十二年獨逸民族は此の地方に侵入して居住せり、即ちシーザー時代よりして歐洲の戰亂の地となれり、自己をのみ正義なりとなす感情なるものか此の麗はしき地方の所有者として再三變遷するを鋭敏に注視する時は唯道徳上の訓練より外に施すべき策なしと感ずるの外なし、西曆千八百七十一年佛蘭西は其の半を獨逸に失へり、普佛戰爭の終に於て、ベルサイユの條約に依つて佛蘭西に屬せる此後半全部を又獨逸に渡せり、是に於て獨逸地質學者のハウチコーン氏かピスマークに此の地域の重要なる價值を指摘せり、其後フランクフォートの條約にて佛蘭西かベルフォートの要塞近くの軍事上價值ある土地との交換に其の一地體を引渡すべく納得したるなり、然るか故に獨逸の

地質學者等は千八百七十一年既に戰時政府に用ひられぬ、此の時以來佛蘭西の地質學者間に於ても其不完全なる先見は矯正せられ今日に至りて漸くアルサス、ローレンの價値を悟るに至れり。

獨逸の鐵及石炭の財源

石炭並に鐵は現時の戰爭に於ては最も重要なるものなり、而して獨逸人は或る他の必要物を供給する代りに其の代用物を工夫するは巧妙なるを以て斯の如き他の必要物の考究は第二の手段とせざるへからざるなり。獨逸は石炭に於ては廣大なる財源を有するも鐵に於ては貧弱なるものなり、然しローレンの財源か獨逸の鐵の財源に含まるゝ時は廣大なるものとなるなり、而して今佛領の地域を所持すとせば獨逸は東半球に於て遙かに卓越せる最大の財源を有するに至るなり。千九百十三年に於て獨逸は鐵鑛二千八百六十萬噸を産出し、其内ローレンより二千百萬噸を出せり。獨逸の石炭は佛領の地域を除き全歐洲の財源の半以上を所有し居れり、石炭の財源に於て英國は彼の次に位し露西亞は第三位なり、而して埃匈國第五位を佛蘭西なりとす。ザール、ヴァレーは今日佛蘭西に知られ居るよりもより以上なる石炭を保有し居れり。斯く現在獨逸に於ては歐洲の石炭並に鐵の上に於て偉大なる財源を掌握し居るを以て、彼の統御の下に其結合力の實現の曉を想像するは強ち不必要なる事ならざるへし。

一方に於て佛蘭西は石炭に於て不足を生じ、鐵に於ては戰爭以前は彼の財源は獨逸に於けるよりも遙かに少量なりしなり、然して佛蘭西の總産出額は二千百七十萬噸なり、其中獨逸か主として供給を仰げるロングウキ、ブリ、炭田より千九百五十萬噸を産出せり。

然るに戰前の形勢は如何なりしか、此を要するに獨逸は彼か此の偉大なる石炭財源の發達なるもの、比類なき活動により、掌握し得る鐵の總へてを殆んど少量用ふるのみなり、而して毎年佛蘭西より之に等しき利益を輸入し居れり、石炭の缺乏せる佛蘭西は一方に於て二千三百萬噸の石炭を輸入

し居れり、而して獨逸にロングウキ、ブリー炭田の産額の十分の一に等しき鐵鑛を輸出し居れり。

佛蘭西の燃料供給

扱て佛蘭西の地質學者及冶金家の現戰亂に對する豫想に就きて思考するに、デラウネー氏は佛蘭西は此の戰亂の終に於て凱旋の幸福を得と先見せり、吾等は吾等か願望を賦し、吾等は彼等をして十分に賦せしむ、余は議論に價值あらしめんかため、可能的他の臆論を考究せずと言へり、彼か賦すべく豫想せし條件は只アルサス、ローレンの償還を含有し居るのみならず、佛蘭西の鑛物の缺乏を救濟すへき十分なる獨逸の石炭並に炭田の附加にあり。

千九百十三年佛蘭西は四千萬噸の燃料を産出せしに、彼か消耗は六千萬噸に達しぬ、然るか故に年々増し來る二千三百萬噸の缺乏を英、獨、白よりして必要だけを供給すべく輸入を要求せり、銑鐵の價格を定むる主要元素なるコークスに就きては、戰前の位置は尙更寒心の至りなりき、然し輸入せられたる三百萬噸か内地の産出の状態を幾及せしめたり。

前述の如く戰前の佛蘭西は年々二千三百萬噸の燃料の缺乏に對立せり、此の状態其物か千九百萬噸の石炭と三百萬噸のコークス(三噸のコークスを産出するに四噸の石炭を出せり、ローレンのみにて四百萬噸の石炭を産出するもコークスは毫も産出せず、而して六百萬噸の石炭と六百萬噸の石炭より製出する四百五十萬噸のコークスを消費せり、故に千二百萬噸の石炭はローレンに於て消費さるゝに、此の地方にては僅か四百萬噸以上産出せざるなり、されはローレンに於て八百萬噸の石炭の缺乏を生するなり、今若しローレンか佛蘭西に歸還せしとせば、其の地方の石炭の缺乏は二千三百萬噸より三千百萬噸に昇るならむ、其れ故に佛蘭西は又獨逸のザール、グアレーの石炭を與へられむ事を要求すへし、併し此の要求は實現されむ、其の推斷は次の如し、ザール、グアレーは其の儘消費せらるる一千萬噸の石炭及びコークスにせらるる三百萬噸の石炭と合計千三百萬噸の石炭を産出するな

48
り、此の地方にて五百萬噸の石炭(石炭其の儘の二百萬噸とコークスに變形する三百萬噸)を消費するなり、故に八百萬噸の過剰を生ず、即ちローレンに於ては正に數字に於て不足あるなり。

ローレン並にザール、ヴァレー

然し乍らコークスに就き細心なる注意を以て分解する時は此の富源の明白なる比較は異なる局面を呈すへし、前述の如くローレン及びザール、ヴァレーは合して千七百萬噸の石炭を産出す、次の如く分解すれば。

石炭其儘の消費

千四百萬噸

コークスになす石炭

三百萬噸

又此の地方は同しく千七百萬噸の石炭を消費す、此の總計は斯く分解さるるなり。

石炭其儘の消費

八百萬噸

コークスになす石炭

九百萬噸

扱て佛蘭西は戦前二千三百萬噸の不足額を表明したるに、ローレン及びザール、ヴァレーを回復したりとせば其不足額は斯く増大せざるなり、コークスを要求し居る彼か位置は益々好況なりしならむ、戦前に於ける佛蘭西の二千三百萬噸の缺乏は次の如く分解さるるなり。

其儘の石炭

千九百萬噸

コークスになす石炭

千萬噸

千九百十三年に於ける佛蘭西に於ける冶金用のコークス輸入高は次の如く分解さるるなり。

獨逸より

二百三十九萬三千噸

白耳義より

五十四萬七千噸

其他の諸國より

十三萬噸

然るか故に佛蘭西か輸入によつて償ふべきコークスは殆ど七百萬噸の缺乏なり、ザール、ヴァレは善良なるコークス用石炭を産出せず、而も佛蘭西は副産物を手に入るゝを要求し居るためにコークスに非ずしてコークス用石炭を要求せるなり。戦前英國は、堅くコークス用石炭を出すを拒絶し只コークスを賣却するを欲せり。戦後の佛蘭西は燃料を購求するに非常なる努力を要するならむ、何處に於て佛蘭西はコークス用石炭を購ひ得るならむか。此處に於て國民は一致協力して以て光明ある主要産地を獲得せずして可ならんや。

佛蘭西の鋼の生産高

鑛石に關する佛蘭西の状態を調査し且又戦後彼のローレン及ひザール、ヴァレに蓄藏するところを想定せし時は等しく苦境なるを察知すへし。即ち彼の鑛石の市場なり。これロバート、ピノット氏に依る内譯にて明かに之を指示し居れり、然し鋼の製造に關する状態を分解する時は此の事件の難事は達せらるゝなり。

千九百十三年佛蘭西は五百三十一萬一千噸の銑鐵を産出せり、九十五萬七千噸は鑄造或は其の儘の輸出にて佛蘭西に於て消費せり、殘餘四百三十五萬四千噸は鐵並に鋼に成生せられぬ。

千九百十三年ローレン及ひザール、ヴァレは五百二十四萬一千噸の銑鐵を産出せり、其の内四百五十萬二千噸は鋼に變形せられたり、而して佛蘭西は千百萬噸の銑鐵の量を保有し居れり、其の内九百萬噸は鋼にせらるゝなり、製鐵所は戦亂中更に數百萬噸の鋼を供給すべく向上せり、佛蘭西は斯く千萬噸の鋼の處分を強ひられたるなり、此の鋼は如何に處分せらるゝか、たとへ戦後佛蘭西の工業上の地位か如何に好況時代を齎すとも彼か處分し得る量以上なる即ち四百萬噸以上の鋼を産出する状態(ローレン及ひザール、ヴァレ)及ひ獨逸よりの多大なる石炭を常に所有し引受け居れり)にあ

50 なるならむ。ピノット氏の概算は次の如し。

佛蘭西戦前の消耗

五百萬噸

ローレン、ザールの消耗

四十萬噸

輸出並に一時的輸入の減少

六十萬噸

合計

六百萬噸

殆と四百萬噸は自然に残るなり。

一九一三年 獨逸へ輸出

六百五十萬噸の鋼

同 英國へ同

五百萬噸 同

同 米國へ同

二百五十萬噸 同

同 白國へ同

百七十萬噸 同

佛蘭西は戰亂中に容量の莫大に増大し、消費の之に伴ひて輸出の發展し行く米國及び戰後冶金に於て鞏固なる地位を示す大ブリテンと競争を維持する事は共に之れ不可能なり。白耳義に向ては百十八萬四千噸を輸出するを得へし。其れ故に再ひ獨逸との競争に於て驅逐せらるへし。

ピノット氏は獨逸か彼の市場に損失する最後迄の方法の概略を説述し數字を以て表示せり。彼等か輸入は此の完全なる問題か米國、英國及び佛蘭西の地方に於ける最も苦心したる調査即ち平和なるものに對して或る正當なる基礎の達せらるゝところの調査に値する事項を具備せり。

此の鋼領はローレン及之に接觸せる佛蘭西か、鑛石の處分に關係せる經濟上の方針を明かに指定せるものなり。此の鐵鑛の保留は歐洲のあらゆる大工業國にとり無上の主要事件なるは常に念頭に置かざる可からず。若し此の戰亂か獨逸軍國主義の勝利と締結せられんには此等の事件は更に思考を要せざる所なり。獨逸は奴隸となりたる歐洲より貢物を支拂ふならむと思考せしものならむ。

余は尙一言を繰返して摺筆せん、此等富源地方の管理に關する考究は彼等か利用上建設し又は破壊すへき境界の地形に就て彼等の配置に論及し、競争及び協同の精神迄に到着せは歐洲未來の平和に對して大に關係を來すへきものなり。

北米合衆國に於ける滿俺鐵の發展に就て

野 上 生

最近スワン氏の西曆千九百十四年以來米國內のフェローマンガン製造業の發達と題して一つの意見を發表せるものを茲に意譯せり。

曰く、西曆千九百十四年度以前には米國內にて製出されつゝありしフェローマンガン量の量は自國內にて年内使用する總量の二分の一にも足らざりしなり。而して千九百十四年度の產出量は當時海外より輸入されたるものと合して十八萬三千七百二十八噸の五割四歩に相當するに過ぎざりしなり。然るに千九百十七年度には國內產と輸入せるものとの合計三十三萬三百八十一噸の八割六歩即ち二十八萬六千噸を自給し得るに至れり。然るに今年度即ち千九百十八年には少くとも國內費消全額の九割に相當するフェローマンガンを自給し得るに至れることは明白となれり。

滿俺供給源地

今回の大戰開始以前世界各國にマンガニーズ鑛石を供給せる國は重にブラジル、印度、露西亞なりしことは何人も知る所なりしも一度戰爭の開始するや此種鑛石の供給不充分なるに至りし結果非常なる努力を以て國內にて此鑛石を發掘す可き必要を感ずるに至れり。而して千九百十四年度に米